

教育委員会の事務の管理及び執行状況の
点検・評価報告書
(平成28年度分)

平成29年12月

豊前市教育委員会

豊前市教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検・評価

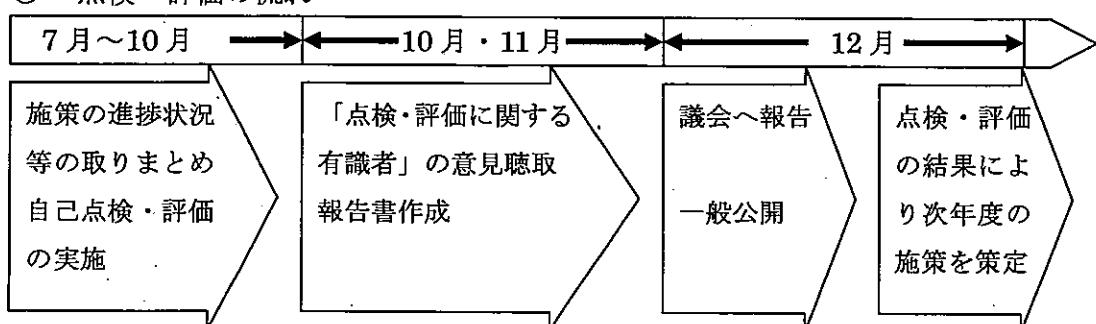
- 豊前市教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検・評価（以下「点検・評価」という。）は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定に基づき実施するものです。

（参考）

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（関係条文抜粋）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

- 点検・評価は、前年度の事業を対象とします。
- 上記に関連する事業は、事務事業一覧表のとおりです。
- 点検・評価は、事業それぞれについて所管係が点検・評価シートを作成し、目的、内容、達成状況、事業の課題について検討した結果を総合的に判断し、A（期待以上）、B（期待どおり）、C（やや下回る）、D（期待以下）にわけて自己評価を行いました。
- 点検・評価については、教育に関し学識経験を有する第三者に外部評価をしていただきました。
- 点検・評価を行った後、その結果を取りまとめた報告書を豊前市議会（文教厚生委員会）に報告するとともに一般に公開します。
- 点検・評価の結果により、評価の高い事業は引き続き実施し、評価の低い事業は課題の解決や、見直しを検討していきます。
- 点検・評価の流れ



豊前市教育委員会点検・評価事務事業一覧

大区分	小区分	事務事業	ページ
就学前教育	1 楽しく充実した幼児教育	1 小・中・高校、幼稚園及び保育所の連携	1
学校教育	2 楽しく充実した学校	1 小規模校の教育活動の充実	2
		2 学校施設の機能更新	3
		3 特別支援教育総合推進事業の取組	4
		4 学力向上に向けた取組	5
		5 放課後支援事業(ぶぜん学び道場寺子屋)	6
		6 心の問題への対応	7
		7 指導体制(環境面)の充実	8
		8 効率化・安全性を考慮した学校給食	9
	3 防災教育の推進	1 被災地復興体験学習	10
社会教育	4 社会教育推進体制	1 社会教育主事の活用	11
	5 青少年教育	1 体験学習の推進	12
		2 地域との連携	13
	6 社会人への支援	1 学習機会の提供	14
		2 地域の課題解決に向けた人材育成	15
		3 各種団体への支援	16
	7 公民館運営	1 地域活動の拠点としての体制整備	17
		2 施設機能の整備	18
スポーツ振興	8 地域スポーツの振興	1 地域総合型スポーツクラブ事業	19
	9 スポーツ活性化	1 青少年のスポーツの振興	20
	10 施設の整備	1 体育施設の整備	21
生涯学習	11 生涯学習推進体制	1 豊前市生涯学習推進基本計画	22
	12 情報提供	1 生涯学習プログラムの構築	23
	13 生涯学習の実践	1 市役所職員による出前講座の実践	24
		2 ボランティアの推進	25
文化財の保護と活用	14 文化財の整備と活用	1 歴史文化基本構想の推進	26
	15 文化財の公開	1 展示施設の整備と教育普及活動	27
		2 各種情報の発信	28
	16 無形民俗文化財の伝承	1 保存と伝承活動の支援	29
	17 歴史遺産の活用	1 ガイドボランティアの支援	30
芸術文化の振興	18 芸術活動	1 文化事業の実施、場の提供	31
	19 読書活動	1 市立図書館の充実	32
		2 学校図書館との連携	33

就学前教育

1 楽しく充実した幼児教育

早期からの情報提供や相談会の実施などによる柔軟できめ細かな対応ができる一貫した支援体制を整え、保護者の意見を尊重した就学先を決定します。

【点検・評価シート 就学前教育】

小区分	小区分	1	事務事業	1	
小区分	楽しく充実した幼児教育				
事業名	小・中・高校、幼稚園及び保育所の連携		担当係	学校教育係	
事業の目的	適正な進路の決定				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 臨床心理士による知能検査や複数体制での就学（教育）相談を行い、幼児の様子について保護者の意見・意向の聞き取りをする。これをもとに必要に応じて教育支援委員会で審議し、保護者・本人の意見を尊重しながら進路を決定する。 				
平成28年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 就学（教育）相談件数延べ 97 件（前年度 66 件）。教育支援委員会（臨時も含む）での判定件数 22 件（前年度 16 件）。 幼稚園、保育園、福祉施設と連携し、就学に不安を持つ保護者や、「困り感」をもつ幼児の保護者に声かけや働きかけを行い、就学（教育）相談を促すことにより、不安を軽減するとともに就学に向けての準備や心構えを示唆する。 専門家（臨床心理士や作業療法士）による助言をもとに、相談者の障がいの程度や教育的ニーズに応じた就学先決定を支援する。 				
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 園への巡回相談を保健師・作業療法士・早期支援コーディネーターとともに年 2 回（1 回目：年長、2 回目：年少・年中）半日かけて実施することで、園との連携が図れ、より広く深い情報を収集することができた。 専門家の的確なアドバイスにより、保育士等の意識と具体的な支援が変わったことで幼児の姿の変容が見られた。 就学先の学校への情報提供が早期に可能となったことで、入学前からの準備・入学後の迅速かつ適切な対応につなげることができた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育の取組みが、幼稚園・保育園ごとに差があり、支援を要する幼児の情報共有や就学時を見据えた連携が不十分な場合がある。 保護者の気づきの促進、意識改革をさらに図る必要がある。 				
評価	A	A 期待以上	B 期待どおり	C やや下回る	D 期待以下
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> 園や学校・関係諸機関との連携をより強化する。 教育支援委員会のさらなる支援体制と臨時の会の充実を図る。 常に子どもの「よりよい育ち」を中心に、園訪問で共有した情報をもとに、保護者への気づきを促し、意識啓発できるようにする。 				

学校教育

2 楽しく充実した学校

教育内容及び教育環境を充実させることは、学校教育を充実する上で最も重要な施策であり、小規模の教育活動、学校施設の機能更新、特別支援教育など、楽しく充実した学校づくりに取り組みます。

【点検・評価シート 学校教育】

小区分	2	事務事業	1
小区分	楽しく充実した学校		
事業名	小規模校の教育活動の充実	担当係	学校教育係
事業の目的	小規模特認校制度を継続し、児童・生徒数の少ない学校でのきめ細やかで特色ある教育に取り組み、児童・生徒数の増加を図る。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none">・加配教員の配置等により小規模校の活性化を図る。・小・中学校との合同行事や地域住民の参加行事を増やし、地域との繋がりを深める。・大村小学校、合岩小学校の児童数の減少が著しいため、平成21年度に通学区域審議会を開催し、小規模特認校とする。平成22年度から募集を開始し、平成23年度に合岩中学校を追加する。・広報誌、市ホームページを活用し、児童・生徒数の増加を図るとともに、各学校の特色を生かした教育活動に取り組んでいる。		
平成28年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none">・学校間での児童数による格差（複式学級等）を解消するため、小規模校へ市費負担非常勤講師を配置した。・5月に合岩小・中学校の合同運動会を開催し、小・中学校の枠を超えた縦割りの共同教育活動を実施できた。		
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none">・継続的に豊前市費負担の常勤・非常勤講師を任用し、小規模校の複式学級解消に努めた。・特色ある教育の推進として、合岩小・中学校連携での英語教育の向上、コミュニケーション能力の育成を図った。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none">・児童・生徒数の減少による学校間の格差や保護者の不安感がある。・市費負担非常勤講師の人材確保が困難である。・中学校の小規模校では、部活動が充実していない、人間関係が固定するなど心配する声が聞かれる。		
評価	B	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下	
今後の対応	<ul style="list-style-type: none">・児童数の減少に伴い、小規模校の複式学級化及び少人数化が懸念されるため市費負担非常勤及び常勤講師任用の充実を引き続き要望し、複式学級の解消に努める。		

【点検・評価シート 学校教育】

		小区分	2	事務事業	2
小区分	楽しく充実した学校				
事業名	学校施設の機能更新		担当係	教育総務係	
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校施設の修理・修繕を行う。 ・建物の非構造部材（設備や天井仕上げ材等）の耐震化を図る。 ・屋上防水や外壁劣化、トイレ等の長寿命化大規模改修を行う。 				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和50年代建設校舎が一斉に老朽化しているため、修理・修繕を行う。 ・文部科学省が緊急で進めている建物の非構造部材（照明器具等の設備機器・天井材）の耐震化を中心に改修を進める。 ・現在のニーズに沿わないトイレの間取りや設備器具の取替を行い、児童・生徒の学校生活環境を改善する。 				
平成28年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・非構造部材の耐震化として、八屋小・山田小・合岩小・八屋中体育館の吊り天井撤去工事を行った。 ・三毛門小体育館の屋上防水工事を行った。 				
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育館吊り天井の撤去工事により、全国各地で発生している震災の際の吊り天井落下による被害の不安は解消された。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校施設の老朽化に伴う修理・修繕費は、年々増加している。緊急の修繕が突発的に発生することもあり、予算の確保が困難になっている。 ・学校施設は老朽化しているため、洋式トイレへの整備が進まず、利用に抵抗感のある児童・生徒が多くなっている。洋式トイレ化、清潔で使いやすいトイレへの改修は喫緊の課題になってきている。 ・照明設備が学校建設当初からのものであるため、器具の劣化や消費電力が大きい。今後は高効率型のLED照明に移行していく必要がある。 ・長期の工事期間を要する大規模改修は、学校教育活動に少なからず制限を強いることになる。体育館等の改修の場合は部活動の代替場所の確保はもとより、移動手段等を含めた対応が必要になる。 				
評価	C	A 期待以上	B 期待どおり	C やや下回る	D 期待以下

今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設等総合管理計画に基づき、「学校施設の長寿命化計画」を策定し、計画に沿って修理・修繕を行う。
-------	--

【点検・評価シート 学校教育】

小区分	小区分	2	事務事業	3	
小区分	楽しく充実した学校				
事業名	特別支援教育総合推進事業の取組 (早期からの教育相談・支援体制構築事業の取組)	担当係	学校教育係		
事業の目的	障がいのある児童・生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導や必要な支援を行うために、その体制の整備を総合的に推進する。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 市内の巡回相談対象児童・生徒に対し、臨床心理士・言語聴覚士等による具体的な教育支援・心理支援の方法を、特別支援教育担当指導主事・築城特別支援学校の教員による学習支援の方法等を示唆してもらうことで、一人一人の障がいの状態や特性に応じたきめ細かな指導を図る。 				
平成28年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 学校の実態に応じて申請してもらい、臨床心理士・言語聴覚士・作業療法士・特別支援学校教員等による巡回相談を実施した。 実施校においては、特別に支援を要する児童・生徒の実態把握や具体的な支援方法等について学ぶだけでなく、教職員間での共通理解を図った。また、保護者を含めた相談会を実施したり、支援体制を見直したりした。 				
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別な支援を必要とする児童・生徒は増加傾向にあり、ニーズが高くなっている。そのため、この状態に応じた迅速かつ的確な対応を求められるが、ここ数年の実績と周知が図られているため、十分な対応ができた。 ここ数年間の研修会等（全員研修会等）で教職員の意識が変わってきており、各学校での体制が整っていることから、相談につなぐ件数が確実に増えている。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 「早期からの教育相談支援体制・構築事業」として、市独自で予算を組み実施できている。今後も事業の成果・課題をもとに充実を図っていく。 				
評価	A	A期待以上	B期待どおり	Cやや下回る	D期待以下

今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> 子ども一人一人の相談に保護者を巻き込み、また、学校全体の指導の工夫と指導体制づくりに生かすことが大切である。 保護者を支える体制づくりを整えることが必要である。 年度当初に各学校長と特別支援教育担当者にこの事業についての周知を図ることで、回数だけでなく相談活動の内容の充実を図る必要がある。
-------	---

【点検・評価シート 学校教育】

		小区分	2	事務事業	4
小 区 分	楽しく充実した学校				
事 業 名	学力向上に向けた取組		担当係	学校教育係	
事業の目的	学習指導要領の趣旨に則り、教育課程の適正な管理に取り組み、児童・生徒に学習の量と質を保障する。				
事 業 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・市教育委員会指定の研究発表会を開催する。 ・学力向上に特化した研修会（学力向上推進会議）を実施する。 				
平成28年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒の学力実態を多面的に把握し、各学校の指導方法の見直し・改善に生かすために、国・県レベルの学力テストに加えて、市独自の予算で標準学力検査も継続実施し、各学校におけるP D C Aサイクルに活用できるようにした。（中学校：4月、小学校：12月） ・教育委員会の研究指定校制度を実施し、校内研究を計画的・継続的に推進し、研究成果を公開することで、児童・生徒が基礎・基本を確実に身につけ、自ら学び自ら考える力を育み、確かな学力の育成に取り組んだ。 ・全国学力・学習状況調査の結果、本市小学校は国語Aをのぞいてすべて全国平均を下回る正答率ではあったが、有意差の範囲内であった。また、中学校においては、数学B以外はすべて全国を上回る正答率であった。 ・平成28年度の研究指定校の発表内容は、合岩小・中学校における「小中連携で取り組む学力向上推進」（県の重点課題）の最終報告会であった。授業を公開し、豊前市ののみならず京築管内小・中学校に向けて成果を発表・交流した。 ・年2回の学力向上推進会議を計画的に実施し、市の状況（成果と課題）を示すとともに各学校の効果の上がった取組を交流し、各学校で取り入れるようにした。 				
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査での正答率は年々上昇している。（特に中学校は京築地区の他の地区に比べて上昇傾向にある） ・全国学力・学習状況調査結果や県学力調査、標準学力調査の結果を様々な観点から各学校において分析し、児童・生徒の実態に応じた独自の取組が推進されている。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校は学校規模や実施学年によって差があるので、取組の焦点化を図ると共に、市全体として「あと1問正解する」を目標に粘り強く取り組む指導を充実する必要がある。 				
評 値	B	A 期待以上	B 期待どおり	C やや下回る	D 期待以下
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校において、全国学力・学習状況調査等の3つの結果をもとに数回のPDCAサイクルを回すことができるよう、研修会の充実を図る。 ・研究指定校制度については、各学校の実態に合った教科等にするとともに、参加者がそれぞれの学校に持ち帰り、日々の実践に生かせるように指導内容の具体化・スリム化を図ることができるようにする。 				

【点検・評価シート 学校教育】

小区分	小区分	2	事務事業	5	
小区分	楽しく充実した学校				
事業名	放課後支援事業（ぶぜん学び道場 寺子屋）		担当係	学校教育係	
事業の目的	落ち着いた環境で自主的・主体的に学習に取り組み、家庭における規則正しい生活習慣づくりの基礎となる子どもの学習習慣の定着を図る。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 原則、小学校4年生、5年生を対象とし、平日の放課後、週1回1時間程度、自主的に学習できる環境を整備し、教員OB等がコーディネーターとなり指導するほか、地域の方々による学習支援員が学習の援助や学習習慣の指導を行う。 児童は宿題や教科書の復習及び教育委員会が作成したプリント学習を行い、基本を確実に身につけ、自ら学び考える力を育み、自学を定着させることにより、学力の向上を目指す。 				
平成28年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 大村小学校を除く小学校9校にて実施した。(参加児童数67名、学習支援員29名) ICT機器等を活用した学習支援を実施するためタブレット等を導入し設備の充実を図った。 				
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 学期を重ねるごとに宿題、問題プリントなどに集中して取り組み、自主学習の基礎づくりができた。 学習だけでなく「寺子屋訓」を復習することにより、挨拶を自主的にするようになり、規律の向上にもつながった。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> コーディネーター、学習支援員の充実及び参加児童数の増加を図るため、広報、市ホームページなど各種媒体を活用するほか、放課後児童クラブヘチラシを配布するなど、広報を行う。 ICT機器等を活用した学習支援については、各寺子屋の参加児童の学年が異なるため、学習時間内においての活用を検討する。 <p>合わせて、コーディネーター、支援員へのICT機器を活用した実技研修を実施し、技能向上を図る。</p>				
評価	B	A期待以上	B期待どおり	Cやや下回る	D期待以下

今後の対応	・ICT機器を活用した取組として、学校におけるICT授業との連携や予習復習など学習支援アプリの導入を検討する。
-------	---

【点検・評価シート 学校教育】

小区分	小区分	2	事務事業	6
事業名	楽しく充実した学校			
事業の目的	心の問題への対応			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ」や「不登校」などの諸問題に対して、学校の組織的・計画的な取組強化及び家庭や地域社会と一体となった取組の充実を図る。 ・教育支援センター（適応指導教室）の活動の充実・促進を図る。 ・相談窓口として教育相談室にカウンセラー（臨床心理士）を配置する。 ・県費による各中学校へのスクールカウンセラーを配置し、活用を図る。 			
平成28年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセラーと各学校教職員との連携による「いじめ」や「不登校」等への早期対応と継続対応の徹底、あわせて豊かな人間性を育む教育活動の推進が図られている。 ・教育相談室では、子育てや子どもの発達状態等で不安を抱える保護者をはじめ、指導に悩む教職員がとぎれることなくカウンセリングを受けている。相談件数は年間 579 件（来所：454 件、電話：125 件）であった。また、教職員・保護者を対象に教育講座を年 2 回開設し、子育てや児童・生徒支援に役立つカウンセリングの手法等について研修会を実施した。 			
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリング講座への参加者が年々増加しており、園・学校関係者の意識の高まりが見られる。 ・学校と連携した教育支援センター（適応指導教室）の継続的で適切な支援や指導により数名の生徒が卒級し、学校に復帰することができた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談の申込が多く、順番待ちになることもあるため、相談日を増やす等の対応が必要である。 			
評価	B	A 期待以上	B 期待通り	C やや下回る D 期待以下
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・教育支援センター（適応指導教室）と教育委員会・学校との連携をこれまで以上に図る必要がある。 ・カウンセラーへの相談の申込が困難な状況にあるとともに学校現場からの派遣要請が多く、さらに、相談日を増やす等の対応に努める。 ・スクールソーシャルワーカーの配置検討を含め、積極的・組織的な教育相談の推進を図る。 			

【点検・評価シート 学校教育】

		小区分	2	事務事業	7
小区分	楽しく充実した学校				
事業名	指導体制（環境面）の充実		担当係	教育総務係	
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> 多様化する学校教育について、子どもの「生きる力」を育み楽しく充実した教育を推進する。個性や価値観を尊重し、お互いを認め合う心や社会の変化に的確にかつ柔軟に対応できる力など、人間性豊かでたくましい子どもたちを育成するために学校の教育環境を充実させる。 				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活において支援が必要な児童・生徒の適切な就学補助を行う。 ICT教育では、設備の充実とサポート体制の確立、及び教職員に対するICTの授業への積極的な活用の推進を行う。 英語に慣れ親しめる環境を整えるため、小・中学校に英語教育助手を配置する。 				
平成28年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 特別な支援が必要な児童・生徒には、学校生活に支障がないように29名の生活支援員を配置した。 ICT教育では、電子黒板の整備を小学校5校（八屋、宇島、角田、黒土、横武）、中学校4校（八屋、角田、千束、合岩）で行い、パソコン等と一緒に活用することで、授業に積極的に取り入れるように努力している。 英語教育は、合岩小に市雇用の常勤英語講師を専属で配置し、その他の9小学校には2名の非常勤講師を派遣している。中学校には1名の外国语指導助手（ALT）を配置している。 				
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校低・中学年から英語に慣れ親しみ、楽しさを実感させ、高学年から中学校へのスムーズな移行ができる教育体制がつくられている。 ICT教育に関しては、電子黒板を積極的に授業に活用することで、児童・生徒の興味や関心を引くことに役立ち、学習意欲の向上に役立っている。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT環境整備において、教育用コンピュータや周辺機器、校内LANやネットワーク環境の整備をさらに充実させる必要がある。 学校では多様な支援を必要とする児童・生徒が年々増加している。それに伴って、支援員の人材確保と予算確保が毎年の課題である。 				
評価	B	A期待以上	B期待どおり	Cやや下回る	D期待以下
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> 生活支援員は、各学校の意向を充分に確認し、適切な配置を行う。限られた予算と人員で、効率的な運用ができるよう工夫する。 ICT教育では、教員各自がICTを活用した授業に積極的に取り組むよう指導する。 				

【点検・評価シート 学校教育】

小区分	小区分	2	事務事業	8	
小区分	楽しく充実した学校				
事業名	効率化・安全性を考慮した学校給食		担当係	学校教育係	
事業の目的	おいしく栄養面を考慮した献立				
事業内容	効率的な学校給食運営及び地産地消				
平成28年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 地元産米を完全使用し、平成21年度から米飯を週4回実施した。 地場産食材活用推進協議会（農林水産課・小中学校長代表・学校栄養職員・調理員・JA等で構成）、献立委員会（学校、調理員等で構成）を年3回設け意見・情報交換を行ない、地場産食材の学校給食への利用推進を図っている。 毎月、地場食材の日は旬の地場野菜を取り入れるほか、食材の説明、生産者の声などを記入したチラシを学校へ配布している。 平成28年度より中学校3校の民間委託を実施した。 				
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 全ての食物アレルギー対象児童へ対し、学校、教育委員会と協議し対応食の実施を行っている。 平成28年度より中学校3校の民間委託を実施し、民間事業者の専門的知識、経験、技術やノウハウを生かしながら、経費削減に努めた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成29年度から新たに6校の民間委託の実施により、現在の臨時・代替調理員の多くが民間事業者へ雇用となるため、直営の学校での調理員の人材の確保と育成が急務である。 食物アレルギーによる除去食の対応が必要な児童生徒が増加傾向にあり個々に対応した給食の提供をするための人員が必要である。 給食調理室については、異物混入を防ぐため、夏季の調理室は高温での作業となり、過酷な労働環境にて調理を実施しており、早急な設備環境の改善が必要である。 				
評価	B	A 期待以上	B 期待どおり	C やや下回る	D 期待以下
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> 今後、学校給食の民営化については、現場の給食調理員等と十分協議の上、審議会に諮る。 学校給食の衛生管理については、研修を実施し知識や技術を向上させるとともに、労働環境を含め改善を進めていく。 				

3 防災教育の推進

東日本大震災の現状を知り、復旧・復興に向けて取り組む人々の力強さや絆を学ぶとともに、防災意識の高揚を図ります。

【点検・評価シート 学校教育】

小区分	3	事務事業	1
小区分	防災教育の推進		
事業名	被災地復興体験学習	担当係	学校教育係
事業の目的	自然災害の怖さ・凄まじさを学ぶ。 復旧・復興に向けてひたむきに取り組む人たちの力強さを学ぶ。 震災から立ち直ろうとする人たちの絆や連携について学ぶ。		
事業内容	体験学習を通して、社会性を習得し、豊かな人間性の育成を図る。 災害意識の高揚を図り、自分自身の課題としてこれから災害対策に生かす。		
平成28年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災の甚大な被害で、今も津波の爪痕を残す宮城県周辺の被災地や災害協定を結ぶ東松島市を訪れ、実際に震災を体験された方より、災害の凄まじさや当時の状況の説明を聞くことで、生徒、児童自身の目で見て、耳で聞いて、肌で感じることのできた意義のある体験学習となつた。また、震災復興体験学習に先立ち2回の事前学習を実施した。 <p>【日程】平成28年8月24日～26日（2泊3日）</p> <p>【参加者】市内小学生6年生及び中学校1年生 33人</p>		
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・震災当時の被災地の映像や写真と、現在の状況を比較することで、災害を乗り越え、復興に向けた人々の努力や繋がり、力強さを学んだ。 ・「命の重さ」「自分の命は自分で守る」など震災復興体験を通じて防災意識の向上を図ることができた。 ・他校との異学年による交流を通じて、規律ある集団行動を実践し、互いに協力し合い、相互扶助の精神を培った。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募集枠に対して、申込み希望者数が多かったため、翌年度募集を実施する際前年度参加希望者への配慮が必要である。 		
評価	A	A期待以上 B期待どおり Cやや下回る D期待以下	
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・被災地を訪れることで、災害の怖さを実感し、今後自分が実践すべき行動などを学習し、充実した意義ある体験学習を今後も継続していきたい。 		

社会教育

4 社会教育推進体制

社会教育体制の確立は、長期的視野に立った取組が必要であることから、社会教育主事の育成を推進します。

【点検・評価シート　社会教育】

小区分	社会教育推進体制	小区分	4	事務事業	1
事業名	社会教育主事の活用			担当係	生涯学習係
事業の目的	・社会教育事業推進のため専門知識を有する人材を育成しその推進に努める。				
事業内容	社会教育主事による支援を行う。				
平成28年度 実施状況	通学合宿、夏休み子ども教室、子ども会活動等への支援を行った。				
成果・課題	成果 ・社会教育関係事業がスムーズに推進することができ、地域の人材育成に寄与できた。 課題 ・新たな社会教育主事を育成する。				
評価	B	A 期待以上	B 期待どおり	C やや下回る	D 期待以下

今後の対応	・さまざまな世代や地域、社会に対応するような社会教育を目指す。
-------	---------------------------------

5 青少年教育

体験学習事業、子ども会育成活動への支援、家庭教育についての事業を行います。

【点検・評価シート 社会教育】

小区分	5	事務事業	1
事業名	青少年教育		
事業の目的	体験学習の推進	担当係	生涯学習係
事業内容	体験活動を通して子ども達の生きる力を育む。 • 通学合宿、体験活動を通して生活習慣を身に付け、豊かな人間性や生きる力を身につけさせる。		
平成28年度 実施状況	• 通学合宿については各校区の代表者で構成する通学合宿実行委員会の会議を重ねて、本来の通学合宿の意義とねらいが一定の方向に向くよう情報と手法を共有し、全10小学校区のうち7小学校区で実施した。 • インリーダー研修に参加した児童が豊前市ジュニア・リーダークラブに関心を示し入部希望者があった。		
成果・課題	成果 • 体験学習の必要性と活用、大人・子ども・地域のつながりによる自己肯定感の育成に効果がみられた。 課題 • 地域によって活動に対する温度差や偏りがある。		
評価	A	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下	

今後の対応	・ 内容を深めさらに多くの市民とプログラムに取り組みます。
-------	-------------------------------

【点検・評価シート 社会教育】

小区分	5	事務事業	2
小区分	青少年教育		
事業名	地域との連携	担当係	生涯学習係
事業の目的	家庭教育の向上、地域教育力の活用を目指す。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育推進協議会を設置し、学校との連携で家庭教育講座を実施する。 また、青少年育成市民会議との共催で子育て中のママ・パパのためのコミュニケーションセミナーを4回実施する。 		
平成28年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・入学説明会時に市内小学校10校で、基本的しつけ、子どもに示す親の姿、早寝早起き朝ごはん等、家庭教育の大切さを伝えた。 ・コミュニケーションセミナーでは、乳幼児の子育て世代の方々を募集し、子育てという同じ境遇の参加者の新しい出会いとふれあい、コミュニケーションのグループワークを通じ、悩みや喜びを共有していただく一助となった。アンケート結果で再度セミナーを開いて欲しいという要望が多かった。 		
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションセミナーを通して参加者同士のつながりがみられ、セミナー終了後も交流が続いている。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業を継続するために、新たな受講者の確保が必要である。 		
評価	B	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下	

今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・出産・子育て世代に周知、広報を強化する。 ・参加しやすい時間帯、曜日を考慮する。 ・家庭教育について事業を見直し、より効果的な実施を検討する。
-------	--

6 社会人への支援

男女共同参画拠点施設としてのハートピアぶぜん、ヤルディぶぜんでの学習支援事業や、ボランティア団体の育成、各種団体への支援などを行います。

【点検・評価シート 社会教育】

小区分	6	事務事業	1
施 策 名	社会人への支援		
事 業 名	学習機会の提供	担当係	生涯学習係
事業の目的	市民のニーズに合わせた社会人への学習機会を提供する。		
事業 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・ハートピアぶぜん、ヤルディぶぜんなどの講座を実施する。 		
平成28年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・豊前市男女共同参画行動計画に示される「男女がともに輝くまちぶぜん」を実現するために教養を高め、余暇を利用して健康維持、教養、クラフト、クッキング、実用講座など幅広い講座を実施した。(ハートピアぶぜん 10 講座、ヤルディぶぜん 10 講座、その他特別講座を実施) 男女共同参画拠点施設として「心の相談」窓口を開設している。 		
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多数の受講者が様々な講座を受講し、目標に向かい教養やスキルを深め、受講者同士の交流を通して、生き生きとした日々を過ごす一助となっている。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な趣味、教養、健康講座の可能性を模索し、新たな講座を開設し、市民のニーズに応えたい。 		
評 値	B	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下	

今後の対応	・様々な価値観、ニーズに対応するような講座の充実を図る。
-------	------------------------------

【点検・評価シート 社会教育】

小区分	6	事務事業	2
施 策 名	社会人への支援		
事 業 名	地域の課題解決に向けた人材育成	担当係	生涯学習係
事業の目的	地域住民が自らの知識や経験を活かし、地域課題の解決に関わっていくきっかけとなる先導的な講座「ぶぜん地域活動スタートアップ講座」を開催し、住民が主体的、自発的に地域に関わっていく人材育成を目指す。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 地域での活動を希望する人たちを募り、そのノウハウを学ぶため、ぶぜん地域活動スタートアップ講座を開催する。 講座を開催し、3団体の活動が始まった。 「陽だまりの家」 多世代の方々が集まり、楽しく過ごせる場「陽だまりの家」を提供している。毎月第3月曜日に開催し、参加者も増えている。 「にじいろキッズクラブ」 障がい児やその家族の交流の場を提供している。 「豊前歴史未来研究会」 観光客の増加や地域発展を目指していく活動のベースづくりとして、豊前の歴史や価値を調査した。 		
平成28年度 実施状況			
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 色々な分野で悩みをかかえる方々の不安やストレス軽減をはかる場の提供をすることで、参加者の方々が生きる希望を見いだし、多世代交流による絆の輪が広がった。また、豊前市の魅力や価値をみつける機会により、今後、尚一層の活動が期待できる。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループの今後の活動が途切れることがないよう、豊前市がバックアップ出来るように予算の確保に努める。 		
評 価	B	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下	

今後の対応	・講座を開催し、既存のグループのフォローアップ、新規参加者への門戸を開く。
-------	---------------------------------------

【点検・評価シート 社会教育】

小区分	6	事務事業	3
小分類	社会人への支援		
事業名	各種団体への支援		担当係 生涯学習係
事業の目的	社会教育団体との連携を通じて社会教育事業の推進を図る。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども会連合会、ジュニア・リーダークラブ、青少年育成市民会議、PTA連合会、ボーイスカウトなど各社会教育団体への支援を行う。 ・子ども夢応援事業を実施する。 		
平成28年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども会連合会では、カルタ大会や指導者講習会などを実施した。 ・ジュニア・リーダークラブでは、24時間テレビ募金活動等を実施した。 ・青少年育成市民会議では各支部への支援や花いっぱい運動等の実施した。 ・PTA連合会では、研修、大会等の活動を実施した。 ・ボーイスカウトでは、野外活動訓練や各種ボランティアなどに取り組んだ。 ・子ども夢応援事業による各地域の異世代交流や夏休み子どもの居場所づくり、通学合宿等を実施した。 		
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各団体で健全で有意義な活動が実施できている。 ・近隣市町に比べ、各種団体の活動は活発である。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業内容のマンネリ化による活動の見直しを行う必要がある。 		
評価	B	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下	

今後の対応	・各地域の情報を共有し、活動に活かすような啓発、広報に努める。
-------	---------------------------------

7 公民館運営

異世代間交流の促進や地域コミュニティ、情報発信基地としての見直しを行い、幅広い業務の展開と施設の機能強化を図ります。

【点検・評価シート 社会教育】

小区分	7	事務事業	1
小区分	公民館運営		
事業名	地域活動の拠点としての体制整備	担当係	生涯学習係
事業の目的	情報発信基地としての機能強化を図る。		
事業内容	ダイレクトな地域情報の発信拠点として、公民館施設を活用する。		
平成28年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年度に「豊前市生涯学習推進基本計画」の策定を行い、平成23年度生涯学習推進協議会を立ち上げた。公民館の活性化について協議し、地域づくりの拠点として、地域活性化事業を進めている。 公民館の活性化については、特に予算化はしていない。 		
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの公民館が地域のコミュニティとなり、子どもから高齢者まで地域活動の中心となり機能している。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内11地区の公民館については、地域づくり協議会の設置を検討、併せて地域担当職員の配置と地域づくり計画の策定へとつなげたい。 		
評価	B	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下	

今後の対応	・コミュニティセンターの概念を周知し、その転換を図る。
-------	-----------------------------

【点検・評価シート 社会教育】

小区分	7	事務事業	2
小区分	公民館運営		
事業名	施設機能の整備	担当係	生涯学習係
事業の目的	地域の拠点施設としてコミュニティを含めた施設運営を図る。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館を地域の活動拠点として活性化するため、社会教育施設としてだけではなく、福祉、子育て、防災などに対応できるシステムを構築する。 		
平成28年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・角田公民館の駐車場が狭く不便であったため、近隣に駐車場となる用地を取得した。 ・八屋公民館の駐車場にアスファルト舗装を施し駐車場機能の快適性、効率性、安全性の向上を図った。 		
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在ある施設の効率化安全化が図れた。 ・今後、社会的背景や利用者の要望をくみ取り対応したい。 		
評価	A	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下	

今後の対応	・公民館の老朽化にともなう大規模改修、耐震診断を行う。
-------	-----------------------------

スポーツ振興

8 地域スポーツの振興

スポーツ人口の底辺の拡大、競技スポーツにおける一貫した指導体制の確立を図ります。

【点検・評価シート スポーツ振興】

小区分	8	事務事業	1
小区分	地域スポーツの振興		
事業名	地域総合型スポーツクラブ事業	担当係	スポーツ振興係
事業の目的	地域での生涯スポーツ活動の推進を行う。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域総合型スポーツクラブの活動を支援する。 		
平成28年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・地域総合型スポーツクラブ活動支援事業において「ぶぜんピープルズ」に補助金を助成し、12種目17教室を開催した。(会員299人) ・地域総合型スポーツクラブ「よろうや」が健康体操・介護予防等を目的とした地域密着型クラブとして活動を開始した。 		
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぶぜんピープルズは、ジュニアから高齢者までを網羅した生涯スポーツの一角を担っている。 ・地域総合型スポーツクラブ「よろうや」は、地域住民の健康と体力維持・介護予防等を目的として活動を開始した。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぶぜんピープルズは毎年実施している「ぶぜんピープルズ祭」に「障がい者スポーツ体験コーナー」を設置するなど、幅広い活動と自主財源の確保に努めているが、財政面での支援が必要である。 ・地域総合型スポーツクラブ「よろうや」は健康体操・介護予防等を目的とした地域密着型クラブとして活動を開始したが、独立運営を目指すには会員数確保が問題となっており、財政面での支援が必要である。 		
評価	A	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下	
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・地域総合型スポーツクラブが担う生涯スポーツと障がい者スポーツを更に推進する。そのため、介護予防等に取組む団体、健康長寿推進課、福祉課、社会福祉協議会や障がい者団体等との連携を深めていきたい。 		

9 スポーツ活性化

青少年のスポーツの振興を図るべく、プロスポーツ選手等との交流を行います。

【点検・評価シート スポーツ振興】

小区分	9	事務事業	1
小区分	スポーツ活性化		
事業名	青少年のスポーツの振興	担当係	スポーツ振興係
事業の目的	青少年の健全育成のため、青少年のスポーツの振興を図る。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・プロスポーツ選手等による各種指導教室を開催する。 		
平成28年度実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボール教室 ライジングゼファーフクオカ（小学生 72名・中学生 63名） ・サッカー教室 ギラヴァンツ北九州（小学生 63名） ・野球教室 ソフトバンクホークス（小学生 53名・中学生 43名） ・バドミントン教室 九州国際大付属高等学校女子バドミントン部（小学生 15名・中学生 2名・高校生 23名・一般 12名） ・ゴルフ教室 プロ選手 4名（小学生 17名・中学生 1名） 		
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロ選手及び国内トップクラスの選手による指導で、参加者は意欲的に取組むようになってきている。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ未経験青少年がスポーツを始めるきっかけづくりとするため、各種指導教室への参加を促す。 		
評価	A	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下	

今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・プロスポーツ選手等による各種指導教室を継続開催し、青少年のスポーツの振興活動を行う。
-------	---

10 施設の整備

公園型スポーツ広場などの整備を図ります。

【点検・評価シート スポーツ振興】

小区分	10	事務事業	1
小区分	施設の整備		
事業名	体育施設の整備	担当係	スポーツ振興係
事業の目的	市民スポーツ推進のため、必要な施設の整備を行う。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・運動施設の整備をする 		
平成28年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・南部グラウンド女子トイレ（1基）洋式改修等修繕を行った。 ・野球場の照明取替等修繕を行った。 ・体育館高圧気中負荷開閉器取替等修繕を行った。 ・テニスコート照明分電盤タイマー等修繕を行った。 ・弓道場渡り廊下格子等修繕を行った。 ・プール女子トイレ（1基）洋式改修等修繕を行った。 		
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女子トイレを洋式改修することでより使用しやすい施設となった。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各施設トイレの全洋式化はできていない。 ・体育館、武道場、野球場、テニスコートの経年劣化による老朽化が目立っているが、特にプールは老朽化している。 ・施設規模が大きいので、改修に費用がかかる。 		
評価	B	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下	

今後の対応	・各施設とも計画的な整備を行う。
-------	------------------

生涯学習

1.1 生涯学習推進体制

職員に対し意識の徹底を図り、市民への情報提供を行います。

【点検・評価シート 生涯学習】

小区分	生涯学習推進体制	小区分	11	事務事業	1
事業名	豊前市生涯学習推進基本計画	担当係	生涯学習係		
事業の目的	地域の課題解決のため、「学習プログラムの構築、生涯スポーツの推進、公民館の活性化、地域の力を活かす」を重点目標に事業を実施する。				
事業内容	・平成22年度に生涯学習基本計画の策定を行い、「豊前市生涯学習推進基本計画」に沿って豊前市生涯学習プログラムを市内全戸配布し、生涯学習推進協議会を立ち上げ具体的な事業実施について協議を行い、併せて計画の概要版を関係施設に配布し、その周知に努める。				
平成28年度 実施状況	・公民館について新たな運用体制を検討すべく、公民館運営審議会へ説明協議を実施した。				
成果・課題	成果 ・各公民館で地域力や課題に特色があり、今後の運用体制の構築に向けて参考となった。 課題 ・今後、地域活性化に向けた具体的取組みを行うべく地元と協議したい。				
評価	C	A 期待以上	B 期待どおり	C やや下回る	D 期待以下

今後の対応	・次年度以降の事業の内容を精査検討して、実りが期待できるビジョンを構築したい。 ・地域づくり協議会を立ち上げ、地域づくり計画を策定し、地域活性化事業（仮称）の取組を行うことを検討したい。
-------	--

1.2 情報提供

情報を一元化し、公共施設や生涯学習施設等と連携して活動の場、交流の場の情報を提供します。

【点検・評価シート 生涯学習】

小区分	12	事務事業	1
小区分	情報提供		
事業名	生涯学習プログラムの構築	担当係	生涯学習係
事業の目的	生涯学習の推進を図る上で、全庁内でのイベント、施策などの情報を一元化し、情報の提供を行う。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習推進幹事会を構成し、各課からの情報提供を受けそのデータベース化を図る。 		
平成28年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・市のホームページ及びパンフレットを作成し、生涯学習情報として公開した。 		
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットにより、イベント施策などの理解が容易となり、広く浸透できた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習プログラムの活用について、学びあい講座紹介パンフレットで地域への働きかけを行う。 		
評価	B	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下	

今後の対応	・今後、市のホームページなどで情報の一元化を図り、PR活動を行う。
-------	-----------------------------------

1.3 生涯学習の実践

市役所職員による実施を可能とするため、十分な職員研修が必要であり、職員の資質の向上を図ります。

【点検・評価シート 生涯学習】

小区分	13	事務事業	1		
小区分	生涯学習の実践				
事業名	市役所職員による出前講座の実践	担当課	生涯学習係		
事業の目的	行政施策、行政情報を学習プログラムとして構築する。				
事業内容	・行政サービスの内容を学習メニューとして構築し、公民館などの学習会等で必要に応じて提供する。パンフレットでも紹介する。				
平成28年度 実施状況	・豊前市学びあい講座紹介パンフレットを全戸配布し、要望のあった講座については、各課で実施をした。				
成果・課題	・各課での工夫とPRが必要である。				
評価	C	A期待以上	B期待どおり	Cやや下回る	D期待以下

今後の対応	・市のホームページなどで情報の一元化を図り、PR活動を行う。
-------	--------------------------------

【点検・評価シート 生涯学習】

小区分	13	事務事業	2
小区分	生涯学習の実践		
事業名	ボランティアの推進	担当係	生涯学習係
事業の目的	「知の循環」としてボランティアの活用を図る。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・書道ボランティアや「はつらつ活動拠点事業」のボランティアを学校等に派遣する。放課後児童クラブへの派遣も行っている。 		
平成28年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・書道ボランティアは小学校8校で実施した。 ・総合政策課、社会福祉協議会と連携して、ボランティアセンターの機能強化を検討し、平成30年度にその実現を目指す。 		
成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・派遣分野の拡大を図るために、ボランティアセンターの機能強化が必要である。 		
評価	B	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下	

今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・市のホームページなどで情報の一元化を図り、PR活動を行う。
-------	--

文化財の保護と活用

1.4 文化財の整備と活用

文化財を活用した教育普及活動は最も重要な施策で、求菩提資料館や各種講演会、学校への出前歴史授業、出版物での紹介などを行います。

【点検・評価シート 文化財の保護と活用】

小区分	14	事務事業	1
小区分	文化財の整備と活用		
事業名	歴史文化基本構想の推進	担当係	文化芸術係
事業の目的	歴史文化基本構想を策定し、今後の文化財保護活用の指針とする。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史文化基本構想を策定する。 		
平成28年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の文化財の構成要素について現況調査を実施した。 ・現況調査の調査結果について報告をまとめた。 ・歴史文化基本構想策定委員会を実施した。 ・構想の策定に向けて、地域で活動を行っている団体に対し説明会を実施した。 		
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現況調査により、市内の文化財の状況が地区別に整理された。 ・策定委員会により構想の方向性が示された。 ・説明会の実施により地元団体の理解が得られた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構想策定以降に構想をいかに活用につなげるかが課題となる。 		
評価	B	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下	
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史文化基本構想(3ヵ年事業)で平成30年度に構想策定の予定である。 ・平成31年度以降は、国の補助メニューを活用しての事業を実施したい。 ・第5次豊前市総合計画、史跡求菩提山整備基本計画、求菩提地区文化的景観保存計画との整合性を図りつつ、より文化財の活用を推し進めた構想とする。 		

15 文化財の公開

求菩提資料館と埋蔵文化財センターを活用して、さまざまな情報の提供を行います。

【点検・評価シート 文化財の保護と活用】

小区分	15	事務事業	1		
小区分	文化財の公開				
事業名	展示施設の整備と教育普及活動	担当係	文化芸術係		
事業の目的	施設を利用して調査収集した文化財資料を一般に公開することにより地域の歴史に対する理解を深め、文化財愛護精神の高揚並びに、地域文化の再認識につなげる。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・求菩提資料館の常設展での修验道文化の紹介や企画展やミニ企画展でのテーマや対象をしづらった取組で幅広い層の取込みに努める。 ・埋蔵文化財センターの一般公開や出前歴史教室、校外学習受け入れ等により、地域の歴史の理解を促す。 				
平成28年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・求菩提資料館では、企画展、市民歴史講座、ふるさと写真コンクール入選作品展、ミニ企画などを開催した。 ・出前歴史講座…小学校1校、埋蔵文化財センター見学…小学校6校 ・埋蔵文化財センターでは、第3回企画展『豊の道～人・もの・文化の行きかうところ～』とそれに併せた講演会1回、トピック展示「ちょっと昔の道具」、夏休み体験講座3回を実施した。 				
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・求菩提資料館は年間入館者18,516人（前年度入館者数12,971人） ・埋蔵文化財センターの年間入館者数1,899人（前年度入館者数2,412人、減少の原因としては開館日数が天候不順等による臨時休館等のため前年度に比べ6日少ないことも一因と思われる。） <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・求菩提資料館の設備の老朽化である。 				
評価	B	A期待以上	B期待どおり	Cやや下回る	D期待以下

今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の保存・展示については、求菩提資料館と埋蔵文化財センターが連携し、施設相互に見学者の流れが出来ることを目標にする。 ・求菩提資料館の老朽化等の問題については、県施設であることから今後のことについて県担当課と協議する。 ・埋蔵文化財センターは今後も企画展・講座等で活用を図る。
-------	--

【点検・評価シート 文化財の保護と活用】

小区分	15	事務事業	2
小区分	文化財の公開		
事業名	各種情報の発信	担当係	文化芸術係
事業の目的	豊前市内の文化財の情報を、インターネットや冊子資料を通して外部へ発信し、全国に豊前市をPRする。また豊前市のイメージ作りと、観光客への情報提供の手段とする。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 豊前市ホームページを活用し、民俗芸能情報や指定文化財の紹介をインターネットで配信するほか、紙媒体（ガイドブック等）についても活用する。 		
平成28年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 豊前市ホームページに当年度の神楽奉納日程情報などの民俗芸能情報や指定文化財の紹介を掲載した。 多目的文化交流センターでの豊前市、京築地域の民俗芸能に関する展示では映像資料の閲覧を実施した。 		
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 神楽奉納・公演等に市内外からの問合せや来訪者が増加している。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> SNS等の活用を検討する。 文化財の周知については、今後も指定物件に変動が予想されるため、その都度情報更新が必要である。 		
評価	B	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下	
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> 神楽の奉納日程・奉納場所アクセス情報などの問い合わせが例年多く、より詳細な内容が求められている。特に需要の多い項目の周知化に重点をおきたい。 		

1.6 無形民俗文化財の伝承

保存、伝承に向けた体制整備を行い、支援体制の確立を目指します。

【点検・評価シート 文化財の保護と活用】

	小区分	16	事務事業	1	
小区分	無形民俗文化財の伝承				
事業名	保存と伝承活動の支援		担当係	文化芸術係	
事業の目的	伝承団体相互の連携を強め、また伝統芸能の伝承を通じて地域コミュニティの構築に寄与し、地域の伝統文化の継承の一助とする。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・豊前岩戸神楽保存会などの運営を行う。 ・様々な助成事業などを活用し、伝承事業の支援を行う。具体的には保存団体の状況を把握し、市の助成金制度や他団体の制度を紹介しながら、必要な支援を行う。 				
平成28年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・保存会例会において各神楽講で情報交換し、民俗芸能調査の依頼や京築アメニティ関連イベントなどの出演依頼に関する業務を円滑に行った。 				
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民俗芸能の豊前市内外への情報発信を行った。 ・福岡県豊前神楽保存会連合会を通じて、豊前神楽の広報PRに努めた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神楽以外の民俗芸能については実施期間や場所が限定されるものもあり、団体毎に相違があるため現在は個々の団体に対応する状態である。 				
評価	B	A 期待以上	B 期待どおり	C やや下回る	D 期待以下
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・神楽以外の民俗芸能についての助成を進める。 ・事業の継続、保存団体に対する年間の補助及び保存団体等が行う保護事業などでの補助基準の整備を行う。 				

1.7 歴史遺産の活用

ガイドボランティアについて更なる充実を求め、外部からの来訪者に対して均質的なサービスの提供を図ります。

【点検・評価シート 文化財の保護と活用】

小区分	17	事務事業	1		
小区分	歴史遺産の活用				
事業名	ガイドボランティアの支援	担当係	文化芸術係		
事業の目的	官民協働を推進し、地域の人材を活用して活性化を図る。				
事業内容	求菩提資料館を拠点として、史跡を紹介するガイドボランティアを支援する。				
平成28年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 一般見学者向け又は学校の校外学習等での史跡ガイド要請への対応の他、求菩提資料館の企画展やミニ企画展時の展示替え、館内巡回その他イベントの作業等、研修に参加した。また、活動地域に存在する岩屋坊の清掃ボランティア活動も行った。月例会でスキルアップのための養成講座を実施した。 豊前市自然と文化財を守る会のボランティア保険料など補助するほか、市マイクロバスを利用した外部研修などの協力を実行した。また埋蔵文化財センターの活用促進とメンバーのスキルアップを兼ねて、平成25年度から前年度までシルバー人材センターに委託していた埋蔵文化財センターの日・祝日の管理、案内をガイドボランティアの会に委託した。 				
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ガイド出動件数21件、案内人数計371名（前年度計18件、216名） <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> メンバーの高齢化問題は依然あり、新たな人材の確保と育成が急務である。養成講座を続けているが参加メンバーは固定化していて新規メンバーの定着が少ない。 ボランティアガイドには森林セラピー事業や、文化財に限らない観光面での需要もあり、従来の文化財ガイド業務の水準を保ちつつ活用の場を広げるために、実働可能なメンバーの確保が急がれる。 				
評価	B	A期待以上	B期待どおり	Cやや下回る	D期待以下
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> 新規メンバーの募集を進める。 求菩提資料館以外にも埋蔵文化財センター、多目的文化交流センターという文化財展示設備を有する文化施設を含めたプログラムの定着を図る。 				

芸術文化の振興

18 芸術活動

文化施設の整備、活動環境の整備を行い、文化活動の推進を図り、参加による体験を通して芸術文化の振興を行います。

【点検・評価シート 芸術文化の振興】

小区分	18	事務事業	1
小区分	芸術活動		
事業名	文化事業の実施、場の提供	担当係	文化芸術係
事業の目的	多目的文化交流センターの活用と老朽化した市民会館の改善対策を行い、市民に上質な文化芸術のサービス提供を行う。心豊かな市民生活形成の一助とする。		
事業内容	・多目的文化交流センターを市民会館と共に文化活動の拠点とする。		
平成28年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 多目的文化交流センターは第14回豊前市美術展、京築地域の神楽定期公演等に活用した。 市民会館では子ども文化事業として、夏休み子ども映画館・春休み子ども映画館、漆工芸教室を実施した。自主文化事業としては「Coba コンサート」を開催した。 		
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 多目的文化交流センタ一年間入場者数29,031人(前年度29,243人) 年間利用件数3,708件(前年度3,696件)であった。 市民会館年間利用件数397件(前年度332件)であった。市民会館の老朽化により利用数は減少傾向にあるが、定着した利用者層も存在している。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民会館は老朽化とバリアフリー化の対応ができないおらず、現在は小規模修繕を重ねているが、将来的には全面的に建替が必要である。 		
評価	B	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下	

今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> 企画の内容に応じた使い分けは定着しつつある。 市民会館の建替えについては、総合文化施設建設検討委員会の議論で方向性を示す。 市民会館と多目的文化交流センターの指定管理者制度導入を検討する。
-------	--

1.9 読書活動

図書館の充実、学校図書館の支援、ボランティア活動の支援をしていきます。

【点検・評価シート 芸術文化の振興】

小区分	19	事務事業	1
小区分	読書活動		
事業名	市立図書館の充実	担当係	文化芸術係
事業の目的	より一層の図書館サービスの充実を図る。		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市立図書館と移動図書館車の活用を行う。 		
平成28年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館まつり、図書館講座、おはなし会、ブックスタート、映画上映会、企画展などの実施した。 ・図書館サービスポイント（出張窓口）を岩屋活性化センターに設置し、図書の貸出返却・予約・リクエスト・簡易検索・貸出券発行の申込を行った。 ・7～8月はサマータイムを実施した。（1時間延長） 		
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来館者数 85,424 人、貸出者数 34,773 人(前年度 35,615 人)、貸出冊数 156,395 冊(前年度 156,598 冊) ・会議室の利用数（使用料の生じた外部利用件数）20 件（前年度 24 件） <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サマータイムを導入したが成果がはっきりと数字に表れていないので、期間と時間の設定を検討し、効果のある取組みを行う。 ・市立図書館の今後の有効活用、事業展開、読書推進活動を行うボランティア団体等との関係構築などが課題となっている。 		
評価	B	A 期待以上 B 期待どおり C やや下回る D 期待以下	

今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・広報の方法、企画の充実、連絡体制などの充実を行う。 ・性別年齢に偏りのない蔵書構成となるように選書を行い、広いニーズに応えられる図書館を目指す。 ・図書館出張窓口の数を拡大する。 ・宅本サービスを開始して自力来館の困難な方への貸出を実施する。 ・資料のデジタル化を行い、ホームページ上で閲覧ができる環境を整える。
-------	---

【点検・評価シート 芸術文化の振興】

		小区分	19	事務事業	2
小 区 分	読書活動				
事 業 名	学校図書館との連携		担当係	文化芸術係	
事業の目的	学校と市立図書館を連携させることで読書推進に寄与し、資料の共有活用に努める。				
事 業 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・団体貸出の推進と、学校教育活動に対する資料提供を図る。 				
平成28年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・市立図書館の指定管理者制度導入後、団体貸出を継続している。その他 の夏休み読書などの活動推進は現時点では生涯学習課で担当している。 ・豊前市読書リーダー養成講座を市立図書館で実施した。参加数は市内 10 校の小学 4~5 年生 18 名であった。 ・豊前市子どもの読書活動充実事業（うちどくりー）を小学校 4 校で実施した。事業の概要と成果について市立図書館で展示を行った。 ・平成 28 年度より指定管理者が新しい団体に交代した。 				
成果・課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年度から豊前市小学生読書リーダー養成講座を発足し、子ども 達への読書に対する関心を高めることができた。 ・うちどくりーを平成 28 年度に実施した小学校で、自主的に継続する 小学校が一校あった。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、移動図書館車協議会でステーションになっている施設の担当者と 図書館との協議の場を年 1 回設けている。学校図書館司書の人員配置に 伴い、学校司書と図書館の意見交換等の場も今後必要である。 				
評 値	B	A 期待以上	B 期待どおり	C やや下回る	D 期待以下
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・読書リーダー養成講座の継続化など、学校・市立図書館・各学校を拠点 とする読書推進ボランティアの連携を図る取り組みを行う。 ・子どもの読書活動充実事業を平成 27~28 年度に実施した 6 校以外の 4 校で平成 29 年度に実施する。 				

豊前市教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検・評価に関する意見

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条に基づき、10年継続で点検・評価に取り組み、必要な改善が行われ、年々充実したものになってきている。

今年度は、実情に応じた小区分・事務事業の見直しを行った。

「学校教育」に関しては、10事業中A評価が3事業、B評価が6事業、C評価が1事業で、新たに宮城県東松島市への「被災地震災体験学習」が加わり、期待以上に評価することができる。また、小・中・高校、幼稚園保育園所の連携、特別支援教育総合推進事業については、豊前市の特色ある取組として、さらなる充実に期待する。学校施設の老朽化に伴う修理・修繕、特にトイレ改修については早急に対応を進める必要がある。

「社会教育」に関しては、8事業中A評価が2事業、B評価が6事業で「体験学習の推進」「施設機能の整備」(公民館運営)が期待以上に評価されている。今後のさらなる取組に期待したい。また、地域住民の人材育成のための講座として「ぶぜん地域活動スタートアップ講座」にて3団体の活動が始まり、今後の活動に期待する。

「スポーツ振興」に関しては、A評価が2事業、B評価が1事業で地域スポーツ、青少年スポーツとともに積極的な取り組みで期待以上の評価がされている。今後とも、関係の部署や団体との連携を深め、これからも継続した取組と施設の整備に向けて更なる努力を期待する。

「生涯学習」に関しては、4事業中B評価が2事業、C評価が2事業で豊前市生涯学習推進基本計画に基づく事業の推進を通じて、その実現を図ることを期待する。また、学習プログラムにおいては、出前講座の周知、活用が必要であるため、さらなる努力を期待する。

「文化財の保護と活用」に関しては、5事業いずれも期待通りの評価がされている。歴史遺跡としての活用の取組やボランティアセンターの機能強化を行い、各種講座や施設展示、神楽日程について、より詳細な内容の広報の周知に努められたい。

「芸術文化の振興」に関しては、3事業いずれも期待どおりの評価がされている。市民会館の老朽化に伴う施設維持の根本的な見直しが必要である。また、市立図書館については指定管理者により運営されているが、さらなるサービスの向上が期待される。

平成28年度の全体の評価としては、概ね適正に実施され、各係において創意工夫された取組がなされている。事業の評価については、7事業の評価の見直しを行った。

教育委員会は、常に教育現場や地域の市民の視点から巡察し、現状把握と改善に努められたい。

平成29年10月20日

森重高岑印
ア 内 章 印